

4年生 道徳学習指導案

場 所：4年生教室

授業者：高坂 直美

1 主題名 郷土のために

2 教材名 「徳べえざくら」 <出典：文溪堂 4年生のどうとく>

3 主題構成表

<p>■内容項目 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度</p> <p>我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。</p>	<p>■内容項目から見た児童の実態（意識）</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の行事に積極的に参加するなど、郷土で行われる行事に参加しようとする気持ちがある。・イベントなどの楽しい地域の行事は積極的に出るが、清掃などは消極的である。・地域の大人や中学生が働いていても、自分たちもという気持ちはもっていない。 <p>■意識の要因</p> <ul style="list-style-type: none">・イベントは楽しいから行くが、清掃は仕方無く参加するなど、地域行事は郷土のために働くことも含まれているという意識がない。・自分たちは地域の一員であるという自覚が薄い。・周りの大人が地域の活動を義務として捉えており、意欲的に参加する姿を見た経験が少ない。	<p>■教材の分析</p> <ul style="list-style-type: none">・何日も降り続いた雨で、土手が決壊した。徳べえは大きな木の生えているところだけが崩れていないことに気付き、桜の苗を育て始めた。郷土のために役立ちたいという純粋な主人公と自分との気持ちを比べることができる。・2年後に、徳べえは土手に桜の苗木を植えようとしたが、村人の大反対にあった。しかし、徳べえの熱心さに押され、村人たちは20本だけ植えることを許した。双方の気持ちを考えることで、価値に迫ることができる。・苗木を植えた5年後に大水が出た。徳べえはずぶ濡れになりながらも、桜の木を励まし続けた。そして、桜の木を植えたところだけは崩れなかった。徳べえの郷土愛に触れ、自分も郷土に貢献する意欲をもつことができる。
--	--	--

■ねらい

郷土の一員として何かできないかと考えることの大切さに気付き、郷土を愛する気持ちを郷土のために役立てようとする心情を育てる。

<p>■展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none">・村のためにという徳べえの気持ちを考えることで、自分の地域への気持ちや、郷土への関心に気付かせる。・喜んでいる村人の気持ちを自分に投影しながら考えさせ、郷土に対する多様な考えに触れ、価値に迫る。・地域の活動について振り返りながら、郷土の一員として参加するよさを感じさせる。・自分の住む地域の人の思いに触れ、価値を深める。	<p>■基本発問（◎中心発問）</p> <p>○徳べえは、どんな気持ちから土手に桜の木を植えようとしたのだろう。</p> <p>◎徳べえは、大水の時、どんな思いで桜の木を励ましていたのだろう。</p> <p>【深】徳べえは正しいことを証明したかっただけなのかな。</p> <ul style="list-style-type: none">・徳べえは、どうしてこんな村を守りたいのだろう。 <p>○徳べえ桜を見ながら喜んでいる村人は、どんな気持ちだろう。</p> <p>○河瀬さんから、飛鳥川用水を作った人の話を聞こう。</p>
--	---

■「わたしたちの道徳」の活用（授業前・授業中・授業後・活用しない）

学活で、P159に自分の住んでいる郷土のよさを書き込み、交流する。

4 学習指導過程

観	学習活動（基本発問と予想される児童の反応）	指導・援助
気 付 く 見 つ め る ・	1 主人公を確認し、場面を把握する。本時の価値について知る。 ・桜はどうして植えられたのだろう。 2 「徳べえざくら」の話を聞いて、感想を交流する。 ・少しでも村の助けになりたいという徳べえの気持ちがわかる。 ・桜の木を植えることを反対されたのに、それでも植えようと説得する熱心さがすごい。どうしてできたのか。 ・嵐の中、ずぶぬれになっても桜の木を励ますことがすごい。 3 感想をもとに、主人公について話し合う。 ○徳べえは、どんな気持ちから土手に桜を植えようとしたのだろう。 ・何とかして村のみんなを助けたい。大きな木の生えている土手は強い。これが何かに役立つか確かめたい。 ◎徳べえは大水の時、どんな思いで桜の木を励ましていたのだろう。 ・何とか村の田畑や暮らしを守ってくれ。土手よ切れないで。 ・今まで自分のやってきたことが正しいと証明してくれ。 ・村人たちが助かるためにも、切れずにいてくれ。 【深めの発問】 ・徳べえは正しいことを証明したかっただけなのかな。 ・徳べえは、どうしてこんなに村を守りたいのだろう。 ・自分の大切な郷土を何としてでも守りたい。 ・郷土を守る気持ちは誰にも負けないほどある。	研究(2)①意識の把握 ・地域との関わりや郷土への関心を、アンケートを基に捉え、意図的指名に役立てる。 ・主人公について、「わかる」「すごい」「どうしてできたの」という視点で感想をもたせる。 ・大水がいたらどうなるのかを想起させ、徳べえの村を何とか守りたいという気持ちに十分共感させる。 ・村人は何とかしたい思いはあるが、新しいことに反対し協力的でなかったことを押さえ、板書に位置付ける。 研究(2)②深めの発問の工夫 ・子どもの思考に沿わせることができるようにいくつか用意する。
深 め る	○徳べえ桜を見ながら喜んでいる村人は、どんな気持ちだろう。 ・ありがとう、徳べえさん。この恩は一生忘れません。 ・徳べえとともに、桜の木を増やそう。一緒に村を守ろう。 ・村のためになるように、いろいろと考えて協力していこう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">郷土の一員として地域を大切にする。</div>	研究(2)②語り合いの工夫・小グループ交流 ・多様な考えに触れることができるように、自分の考えを理由付きで交流できるように話形を指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・〇〇さんは、どう思いますか。 ・〇〇さんの考えと～は同じだけれど、～が違うと思いました。 </div> ・本時の主題に迫ることができるように、人助けではなく、郷土のためという思いに気付かせるようにする。
見 い だ す	4 郷土愛について、自分の生活とつなげて振り返る。 ○郷土の一員としてやっていることはあるか。 ・清掃活動をしています。自分の地域は自分たちできれいにしたいからです。 ・「緑の少年団」で活動しています。揖斐川町の豊かな森林を守るのは嬉しいです。これからも関心をもって頑張ります。 5 飛鳥川用水の話を聞く。 ・河瀬さんの話から、北方地区にも、教材と同様に地域のために尽くした人々の話があることを知り、感想をもつ。 6 本時の自己評価をする。 ・徳べえと自分を重ねて考えることができたか。 ・仲間の意見につないで自分の意見を話すことができたか。 ・なりたい自分を見付けることができたか。	研究(2)①振り返りの工夫 ・身近なことを思い浮かべ、自己の意識や行動、生活をノートに振り返ることができるようにする。「緑の少年団」の活動を書いている児童を意図的指名し、毎日行っている活動が郷土の役に立つ一端になっていることを意識させる。 研究(1)①終末の工夫 ・自分が住む地域を大切にしていこうとする思いを深めるために、飛鳥川用水を作った人々の思いや苦労を、保全隊の河瀬さんに語ってもらう。

5 道徳の時間<本時>と他の教育活動との関連

<日常生活>	<教科・特活>	<児童の意識>	<指導・援助>
総合的な学習 ・桜の苗木へ、毎日水をやる。 ・苗木の植え替えなどの世話をする。	10月（地域行事） 地区運動会 地域の運動会の競技に進んで参加したり、運営を手伝ったりする。	・地域の活動に進んで参加しよう。 ・地域の人に褒めてもらいたいな。 ・手伝いたいな。	・自分の住む地域の運動会に参加した児童を調べ、どのような気持ちで参加したのかを確かめて価値付ける。
縦割り班掃除 ・自分たちが使っている教室をきれいに掃除する。 ・高学年を手本にして掃除をする。	・毎年続いている行事だ。自分も進んで参加しよう。		
登下校 ・地域の人に見守ってもらっていることを意識し、はきはきとしたあいさつをする。	10月（社会） 飛鳥川用水の学習 北方地区の水はどこから来ているのかを学ぶ。	・昔の人はすごいな。身近にあるのは知らなかった。 ・地域のために身を尽くして働いた人がいたんだな。	・命の危険を顧みずに取り組んだ素晴らしさだけではなく、その裏にある郷土のために尽くしたいという思いに気付いている児童を価値付ける。
	・地域のために命をかけるなんてすごいことだ。周りの人も本当に喜んだだろう。自分もそんな生き方がしたい。		

道徳の時間（本時） 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心 教材名「徳べえざくら」

本時のねらい

郷土の一員として何かできないかと考えることの大切さに気づき、郷土を愛する気持ちを郷土のために役立てようとする心情を育てる。

北方踊りの練習 ・これまで高学年が引き継いできた北方踊りを引き継ぎ、横笛の練習をする。	10月（総合） コア山への植樹 これまで預かって育ててきた苗木を、徳山のコア山に植えに行く。	・しっかりと育てることができた。 ・自分の育てた木が、揖斐川町の山や川を守るんだな。	・これまで世話をきちんとしてきた児童の気持ちを改めて聞き、郷土のために育成できたという視点で価値付ける。
	・毎年毎年、山に木を植えている。自分たちもその一員になれたのだな。		

郷土の一員として、していること ・清掃活動 ・緑の少年団	郷土の一員として、地域を大切にすること	桜を見ながら喜んでいる村人 ・ありがとう。 ・一緒に村を守ろう。 ・村のために私たちも協力したい。	桜を見ながら喜んでいる村人	自分の村を何としてでも守りたい。 郷土を守る気持ちは誰にも負けない。	大水の時、はげましていた ・がんばれ。切れないで。 ・正しいことを証明して。 ・村を守って。	勝手に桜を植えた ・みんなを助けたい。 ・役立つか確かめたい。 ・村を守りたい。	「徳べえざくら」 徳べえ
------------------------------------	---------------------	--	---------------	---------------------------------------	---	---	-----------------